

大阪市立大学

地域連携センター

年報

2019



Annual Report 2019

目次

大阪市立大学「地域連携センター年報2019」発行にあたって	01
2019年度 地域連携センターの概要	
相談の流れ	02
組織図・施設・アクセス	03
2019年度 地域連携センター活動記録	
活動実績	04
刊行物実績	06
相談受付実績	07
地域連携センター運営委員	08
2019年度 地域連携事業の概要	
地域貢献	
● 大阪市との連携強化に向けたスタートアップ支援事業	09
● 大阪市職員提案制度 若手職員応援部 ～想いを導くwith 市大～	09
● 西成情報アーカイブネット企画運営事業	10
● 「東成区の地域資源」魅力発信のための調査業務	10
● 「副首都・大阪」大学連携プロジェクト	11
● JR西日本×大阪市立大学「第1回まちのにぎわい創出アイデアコンテスト」	12
● すみ博協賛 市大キャンパスツアー「近代建築・豊かな植栽と歴史をひもとく」	13
● 住吉区老人福祉センター 市大キャンパスツアー	13
● 子育てママの社会科見学@ぐうぐう	13
公開講座	
● 文化交流センター講座	14
● 第16回三大学連携事業 「SDGs—私たちが生き続けられる世界に！」	15
● 大阪落語への招待	15
● 近鉄文化サロン共催講座	16
● 朝日カルチャーセンター連携講座	16
小中高大連携	
● 第16回高校化学ブランドコンテスト	17
● 府大★市大★高専 小中学生サマーラボ ～やってみよう！見てみよう！～	18
● 市大授業	20
● 中学生による大学見学	20
● 高校生のための先端科学研修(大阪市立大学化学セミナー)	21
● リビング子ども大学2019 「実験しようよ！“百聞は一見にしかず”」	21
その他事業	
● 博学連携事業	22
● 地域志向教育の取り組み	24
● COC+事業「わかやまの未来を切り拓く若者を育む “紀の国大学” の構築」	25
● 和歌山県の過疎地域における集落の維持・活性化と再編(データ利活用事業)	26



大阪市立大学「地域連携センター年報2019」発行にあたって

平素より本学の地域連携センター事業にご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。

地域連携センターは、教育・研究と並び、大学の重要な使命である地域貢献を総合的かつ組織的に遂行するために2013年2月に開設されました。

この間、大学の窓口の一元化として広く地域からの相談を受け付けるとともに、本学の設置団体である大阪市との基本協定(2017年2月)をはじめとして近隣の区や自治体・団体等と連携協定を締結するなど、さまざまな地域との連携に取り組んでまいりました。その内容は、受託研究・受託事業として実施するものや他大学との連携事業など、多様な形でアウトプットしており、本学としても地域との連携による一層の可能性を思索しています。

さて、本年報では地域連携センターの概要についてご紹介するほか、2019年度の年間活動実績の掲載、部会活動で行っている(1)地域貢献、(2)公開講座、(3)小中高大連携、の3つの柱ごとの取り組み、およびその他事業として、ワーキンググループを組織して実施している博学連携事業や、本学の地域志向教育の取り組み、文科省COC+事業などについてまとめています。

今後も本学および地域社会の発展に寄与するべく、本年報が、地域と大学のさらなる連携のきっかけとして活用いただけるものとなることを念願しています。

2020(令和2)年7月

地域連携センター所長 宮野 道雄
(学長補佐(地域貢献担当))

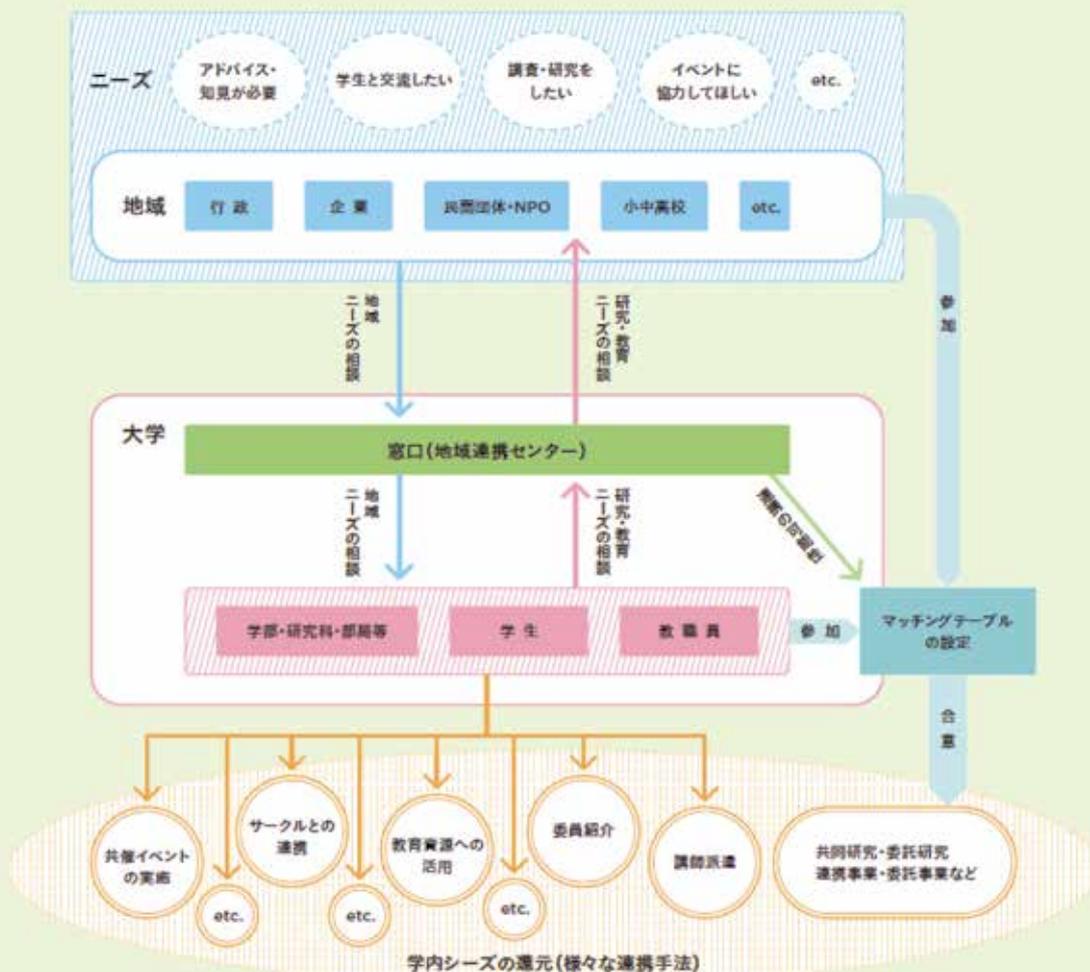
地域連携センターの概要

2013年に開設された大阪市立大学地域連携センター (Collaboration and Contribution Center for Community) は、地域から寄せられる様々な課題(地域ニーズ)と教育・研究活動等を通じた学内資源(大学シーズ)とのマッチングを図ることで、地域社会と大学をつなぐ役割を果たします。

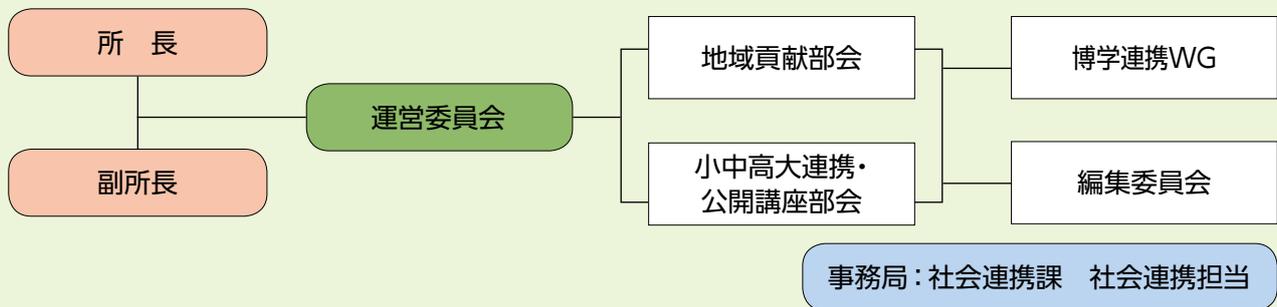
また、「地域貢献」「公開講座」「小中高大連携」の3つの事業を積極的に実施し、地域の人々の様々な出会いと交流の場の創造に寄与することで、地域の活性化、文化発展の拠点となることを目指しています。



■ 相談の流れ



■ 組織図 (2020年7月1日現在)

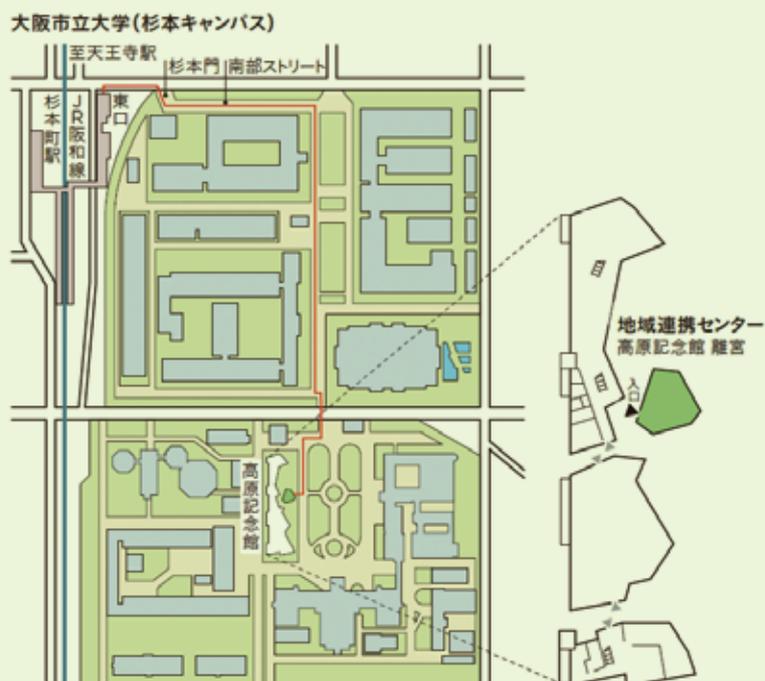


■ 施設

センター外観・内観



■ アクセス





2019年度 地域連携センター活動記録

●2019年度 活動実績

		2019年4月	5月	6月	7月	8月	9月	
地域貢献 推進本部会議					第1回 (7/1)	第2回 (8/28)		
地域連携 センター 運営委員会			第1回 (5/16)					
地域貢献 部会			第1回 (5/16)	第2回 (6/17)	第3回 (7/17)			
小中高 連携・公開 講座部会			第1回 (5/16)					
刊行物					年報2018 ForCNEWS No.19			
地域貢献	大阪市との 連携						●(受託事業)西成情報アーカイブネット	
							●(受託事業)「東成区の地域資源」魅力発信	
							●大阪市とのスタートアップ	
							●大阪市職員提案制度への支援	
	連携事業 その他						●副首都・大阪連携プロジェクト	
公開講座	その他 公開講座	●大阪落語への招待 4月～7月 水曜5限 全14回						
							近鉄文化サロン共催講座 (通年)	
							朝日カルチャーセンター連携講座	
	センター 文化 交流 講座		文化交流センター5・6月講座 13講座		7・8月夏期講座 「学問の先達は語る」 7講座		防災講座 4講座	
小中高 連携事業		●市大授業			●小中学生サマラボ			
					●高校生のための先端科学研修 ●リビング子ども大学 ●中学生大学見学			
その他事業	博学 連携						戦略的研究(基盤研究)	「豊臣期大坂城本丸」
							●全国同時七夕講演会	
	地域志向 教育/CO-C+ 事業	(前期)地域実践演習Ⅱ・アゴラセミナーⅠa開講						
	●第6回紀の国大学 協議会(4/23)	●アゴラセミナーⅠa (地域福利クール) 新宮市スタディツ アー(旧熊野川町、 新宮市街) (5/17～19)				●オープンキャンパス でCR副専攻の紹介/ アゴラⅡ発表会 (8/10, 11)		
					●[プラスチック成形 技術]和歌山大学と 共同実習(8/28)			

10月	11月	12月	2020年1月	2月	3月
			第3回 (1/10～20)		
第2回 (10/17)				第3回 (2/20)	
第4回 (10/25～11/1)	第5回 (11/21)	第6回 (12/20)	第7回 (1/22)	第8回 (2/20)	第9回 (3/18)
第2回 (10/17)			第3回 (1/21～28)	第4回 (2/20)	
	ForCNEWS No.20			メールマガジンVol.1 配信開始	
企画運営事業 2019.4月～2020.3月					
のための調査業務 2019.4月～2020.3月					
支援事業 2019.5月～2020.2月					
2019.7月～2019.11月					
2019.5月～2019.11月					
2019.5月～2019.11月					
●すみ博協賛キャンパスツアー	●住吉区老人福祉センターキャンパスツアー			●子育てママの社会科見学	※中止 第7回地域連携発表会
	●三大学連携事業公開講座				
(※2月後半以降は中止)					
(通年) (※2月後半以降は中止)					
	文化交流センター公開講座 7講座程度		専門家講座 23講座(※2/25以降の7講座は中止)		
野村證券共催講座 4講座	博学連携講座 4講座				
●高校化学ブランドコンテスト	●中学生大学見学				
の復元—文理融合・博学連携プロジェクト—					
	●シンポジウム	●ミュージアム連続講座			
(後期)地域実践演習Ⅲ・アゴラセミナー I b 開講					
	●紀の国大学シンポジウム(11/16)	地域実践演習Ⅲ「紀伊半島の地域再興の学修」フィールドワーク (12/14,1/18※3/12はオンライン授業に変更)			
	●「業界・企業研究セミナー」にわかやまブース設置 (11/11～22)	●キャリアセミナー「特別講座&OBOG交流会」(12/20) ●御坊まち活ゼミナール(12/8)	●「業界・企業研究セミナー」にわかやまブース設置 (1/9～24)	●紀の国大学認定制度 合同発表会(2/27)	

●2019年度 刊行物実績 ※内容は地域連携センターWebサイトからも閲覧できます。

◇年報2018 (Annual Report2018)

地域連携センターの年間を総括した活動報告として、年に1回年報を発行しています。
年報2018には、2018年度の活動記録と、取り組んだ地域連携事業の概要を掲載しています。



【掲載項目】 (2019年7月発行)

- 大阪市立大学「地域連携センター年報2018」発行にあたって／組織・施設
- 地域連携センターの概要
- 組織・施設・アクセス
- 2018年度 地域連携センター活動記録
 - ・活動実績
 - ・刊行物実績
 - ・相談受付実績
 - ・地域連携センター運営委員
- 2018年度 地域連携事業の概要
 - ・地域貢献・・・大阪市との連携強化に向けたスタートアップ支援事業、第3次新宮市地域福祉計画の作成にかかる調査業務、第6回地域連携発表会、大阪市博物館協会との博学連携事業、地域志向教育の取り組み、COC+事業等
 - ・公開講座・・・文化交流センター講座、第15回三大学連携事業、大阪落語への招待等
 - ・小中高大連携・・・市大授業、府大★市大小中学生サマーラボ、第15回高校化学グランドコンテスト等

◇地域連携センターニュースレター「ForCニュース」

地域連携センターで実施した地域貢献活動や公開講座、小中高校との連携事業について、定期的に紹介し発信する媒体として、地域連携センターニュースレター「ForC NEWS」をNo.20まで発行しました。



No.19(2019年7月発行)

【掲載記事】

- ・第6回地域連携発表会～地域と大学 協働から見える可能性～
- ・CR副専攻受講生が紀の国大学「わかやま未来創造人」に認定
- ・グリーンアドベンチャー@市大 君もミドリのものしり博士になろう！
- ・「副首都・大阪」大学連携プロジェクト キックオフ・合同講義に参加
- ・大学の授業を実体験！「高校生のための市大授業」
- ・地域連携センター年報2018を発行しました
- ・地域連携センター活動実績(2019年3月～2019年6月)



No.20(2019年11月発行)

【掲載記事】

- ・第16回高校化学グランドコンテスト
- ・「第1回まちのにぎわい創出アイデアコンテスト」中間報告会
- ・オープンキャンパスにてCR副専攻科目の発表を実施
- ・府大・市大・高専 小中学生サマーラボ
- ・全国同時七夕講演会2019「ブラックホール・・・見えた?!」
- ・第7回地域連携発表会を開催します
- ・地域連携センター活動実績(2019年7月～2019年10月)

2020年2月からはニュースレターに代わり、直近で開催するイベントなどの最新情報をお届けする地域連携センターメールマガジン「ForC NEWS」の配信を開始しました。配信を希望される方は、地域連携センターまでお問い合わせください。

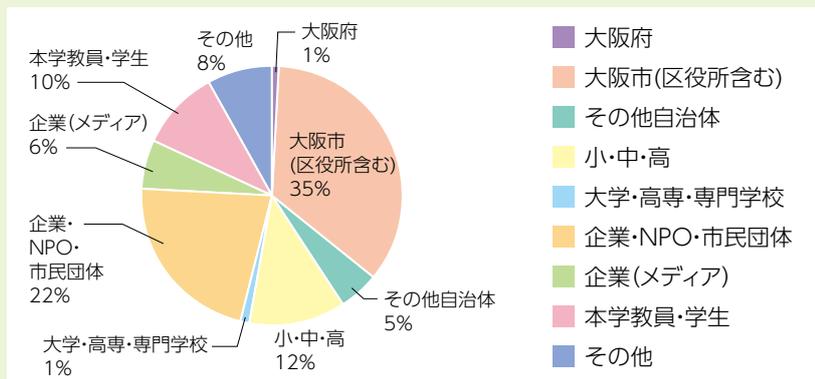
●2019年度 相談受付実績

年間相談件数の推移

地域連携センターを通じて大学に寄せられるニーズ(相談)は、2013年度のセンター開設以来、年々増加・多様化しています。2019年度は計83件の相談が寄せられました。

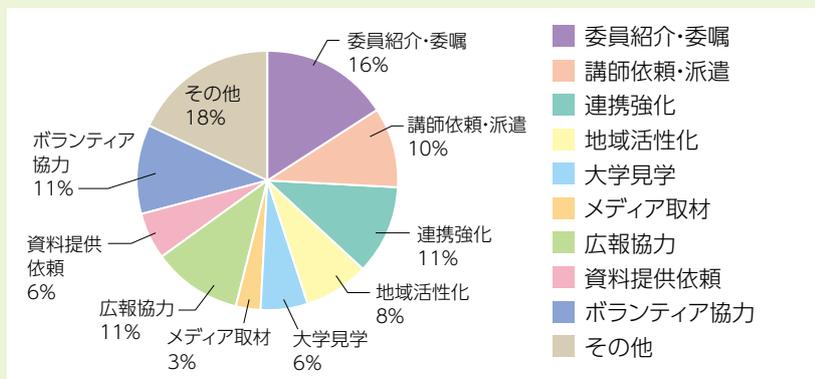


相談者区分



近年は、本学の設置団体である大阪市だけでなく、地域の様々な団体から大学への相談が寄せられており、特に小・中学校等からの相談が増加しています。また一方で、本学教員・学生から地域で活動したいとのニーズもあり、地域と大学が連携することへの関心の高まりが伺えます。

依頼内容区分



相談の内容は多岐にわたり、委員や講師としての教員の紹介だけでなく、大学と連携してみたいという企業や団体からの相談や、学生のボランティア協力、キャリア教育の一環としての大学見学など、大学の持つあらゆる強みを生かした連携が期待されています。

TOPICS

相談からの実現例：格言入り「とびばこパン」をオープンキャンパスで限定販売

本学卒業生が経営する大阪府堺市のパン屋「Pain de Singe (パンドサンジュ)」より、母校である本学とコラボレーションしたいとの相談があり、本学広報課とマッチングした結果、オープンキャンパス限定で、本学教員の格言入り「とびばこパン」を販売しました。

「とびばこパン」はパンドサンジュが開発したとびばこ型のスイートブレッドで、誕生からわずか数年で、大手百貨店やスーパー、駅などでも販売されるようになった人気のパンです。そこに本学の教員が感銘を受けた格言や、自身の研究や人生の岐路におけるモットー、座右の銘としてきた格言を受験生へのメッセージとしてプリントしたパンを販売したところ、数時間で完売するほどの大盛況となりました。



●2019年度地域連携センター運営委員

学長補佐(地域貢献担当)／所長	宮野 道雄
経営学研究科	田村 晃二
経済学研究科	Charles Weathers
法学研究科	岡成 玄太
文学研究科	木村 義成
理学研究科／副所長 (小中高大連携・公開講座部会長)	中村 太郎
工学研究科	岡 育生
医学研究科	濱崎 孝史
生活科学研究科	森 一彦
創造都市研究科	小長谷 一之
看護学研究科	松田 光信
都市健康・スポーツ研究センター	横山 久代
人権問題研究センター	廣岡 浄進
都市研究プラザ／副所長(地域貢献部会長)	水内 俊雄
大学運営部長	折原 真子
大学運営部社会連携課長	林 久善

文学研究科(オブザーバー／博学連携WG)	仁木 宏
----------------------	------

事務局 (連絡先)06-6605-2068・3504 chiiki4c@ado.osaka-cu.ac.jp	垣谷 篤
	松田 智子
	車田 季之
	阿部 祐子
	大石 奈緒
	鶴指 眞志

文化交流センター担当副参事
社会連携課社会連携担当係長
社会連携課社会連携担当係長
社会連携課社会連携担当
社会連携課社会連携担当
地域連携センター
事業コーディネーター



2019年度

地域連携事業の概要

[TOPICS]

『日経グローバル』大学の地域貢献度調査で公立大学2位に！

2019年10月21日発行の『日経グローバル』374号で発表された「大学の地域貢献度調査」において、本学が全国の公立大学の中で2位（横浜市立大学と同率）、総合では13位にランクインしました。本学の地域貢献に関する制度的な取り組みへの積極性や、図書館の開放など、市民に開かれた大学であることが評価されました。（このランキングは、日本経済新聞社が全国755の国公立大学を対象に行った調査への回答を元に、大学が教育や研究などの機能を通じて地域社会にどのような貢献をしているかを「地域貢献度」として点数化して順位づけしたものです。）

大阪市との連携強化に向けたスタートアップ支援事業

地域貢献

● 事業概要

本学の設置団体である大阪市とのさらなる連携の推進をめざして、大阪市の行政活動の事業化に向けた初動の取り組みを財政的に支援する2017年度からの継続事業です。大阪市の区・局・室から挙げられた行政ニーズと学内の教育・研究シーズとのマッチングに向けたコーディネートを行い、マッチングが成立した案件について、事業予算（2019年度：100万円）の配分を行いました。

● 2019年度実績

連携事業候補7件についてコーディネートを行ったところ、2件のマッチングが成立しました。

■ 成立状況

大阪市担当部署	案件名	担当教員
西区	地域コミュニティ形成に向けた取組み支援	水内 俊雄 教授(都市研究プラザ)
健康局	大阪市健康増進計画「すこやか大阪21(第2次後期)」推進のための調査研究	川野 英二 教授(文学研究科)

大阪市職員提案制度 若手職員応援部 ～想いを導くwith 市大～

地域貢献

● 事業概要

大阪市職員人材開発センターが実施する職員提案制度・若手職員の部に、本学が協力しています。40歳未満の若手職員グループが応募した、よりよい市政・区政を実現するための政策・施策に関する提案に対し、本学教員が提案内容に対するブラッシュアップや発表に至るまでの指導・助言を行います。提案は審査の上、優秀な成績を収めた場合は市長表彰の対象となり、市職員の人事考課にも反映されます。

● 2019年度実績

提案者	大阪市水道局職員(4名)
提案名称	AR(Augmented Reality・拡張現実)システムを用いた地下埋設物情報表示に関する基礎検討
提案概要	地中埋設物に関する情報を地上で正確に把握するための三次元地中埋設物図を作成する。またARを活用し、作成した地中埋設物図を現実世界に表示することで、現場で掘削せずに地中埋設物を確認可能な状態にする。これにより、掘削工事における配管等の破損リスク低減、工事期間短縮を実現する。
支援担当教員	鍋島 美奈子 教授・小林 祐貴 講師(工学研究科)
審査結果	優秀賞



教員による支援の様子

地域貢献

西成情報アーカイブネット企画運営事業

● 事業概要

西成特区構想のもと、2013年より継続実施している西成区からの受託事業です。地域に現存する歴史的価値・学術的価値のある資料を収集・整理・デジタルアーカイブ化し、また学習会や交流企画を実施することにより、歴史の正確な理解と地域力の醸成、西成区のイメージアップを図ることを目的としています。

● 2019年度実績

■ 拠点における常設展示・資料解説・閲覧対応

場 所：大阪市社会福祉研修・情報センター 1階

■ 小学校への出張授業

開催日：2019年9月3日(火)

対 象：千本小学校6年生(62名)

講 師：水内 俊雄 教授(都市研究プラザ)

■ にしなり今昔探訪ツアー

西成・浪速・大正区「境域」と木津川の知られざる魅力発見

開催日：2019年10月26日(土)

参加者：約30名

案内人：水内 俊雄 教授(都市研究プラザ)、吉村 智博 学芸員(西成情報アーカイブ)

コース：芦原橋駅、鼈川橋梁跡、新田帯革工場跡、浪速(坐摩)神社、南海木津川駅、タカラベルモント工場前、木津川の渡し など

■ その他

- ・ 資料アーカイブ作業
(釜ヶ崎日雇労働者組合所蔵資料、松繁逸夫旧蔵資料、山王町会所蔵資料等)
- ・ 取材対応・資料提供(NHK大阪、ベイコムテレビ等)



小学校での出張授業の様子



にしなり今昔探訪ツアーの様子

「東成区の地域資源」魅力発信のための調査業務

● 事業概要

東成区の地域資源を魅力的に発信するため、まち歩きを通じて地域資源の収集を行い、現地を歩きながらスマート端末で見ることが出来るよう、地域資源の地図アプリへの掲載を行っています。

● 2019年度実績

これまでに収集したコンテンツのデジタルデータ整理と更新のほか、本格運用に向けた作業手順書や仕様書の作成を行いました。また制作された地図アプリを実際にタブレットやスマートフォンで利用しながら区内を歩き、大学教員等から解説を行う、区民を対象としたスタディツアーを区役所と共同で開催しました。

■ 収集したコンテンツの整理、編集、地図アプリへの掲載

■ 地図アプリの試行的運用、デザインの作成

■ 地図アプリの作業手順書、仕様書の作成

■ “ひがしなり”スマホで魅力発見！まち歩きツアー

開催日：2019年11月30日(土)

参加者：約30名



地図アプリ画面イメージ



アプリを利用したまち歩きの様子

案内人: 水内 俊雄 教授(都市研究プラザ)、天野 景太 准教授(文学研究科)、吉田 大介 准教授(工学研究科)、大塚恒平氏(HERE Japan株式会社/Maplat開発者)、宮田 孝夫氏(地域ガイド)、比売許曾神社宮司、八阪神社宮司

コース: 比売許曾神社、東小橋村集落跡、亀の橋跡、松下幸之助創業の地、仁丹看板、大阪セルロイド会館、いまざとならみち道標、大今里村集落付近(共同管理墓地など)、奈良街道、玉津橋、八阪神社、二軒茶屋、東小橋北公園など

「副首都・大阪」大学連携プロジェクト

地域
貢献

● 事業概要

大阪府・大阪市がめざす「副首都・大阪」をテーマに、学生が調査及び研究を行い、その成果を発表する「副首都・大阪」連携プロジェクトに、松永桂子准教授(経営学研究科)ゼミが参加しました。「大阪人とのふれあい ～持続可能な観光につなげて～」というテーマで、ヒアリングやフィールドワークを重ね、成果報告会に臨みました。

主催: 大阪府・大阪市

● 2019年度実績

参加校: 大阪市立大学、関西大学、摂南大学、大阪経済大学

■ キックオフ・合同講義

開催日: 2019年5月27日(月)

場 所: 大阪府庁舎

内 容: 大阪府・大阪市副首都推進局から「副首都ビジョン」についての説明、グループワーク

■ 中間報告会

開催日: 2019年9月29日(日)

場 所: 大阪経済大学大隅キャンパス

内 容: 各大学のプレゼン発表、各大学教員および大阪府・大阪市関係者からコメント、グループワーク

■ 成果報告会

開催日: 2019年12月22日(日)

場 所: 大阪市立大学健康科学イノベーションセンター

内 容: 各大学のプレゼン発表、各大学教員および大阪府・大阪市関係者からコメント

松永ゼミは「大阪人とのふれあい ～持続可能な観光につなげて～」というテーマで、ヒアリングやフィールドワークを行いつつ、調査及び研究を行ってきたこと、中間報告会で得られたアドバイスをもとに発表を行いました。これまでゼミの中で取り組んできた地方の観光と対比させることで、都市における観光の特徴をまとめつつ、さらに大学で行われる「学祭」にも着目し、学祭を外国人観光客と地域住民の交流の場とする、新たな視点の提案を行いました。



成果報告会での発表の様子



コメントされる松永先生



JR西日本×大阪市立大学 「第1回まちのにぎわい創出アイデアコンテスト」

● 事業概要

JR西日本と大阪市立大学による初の連携企画として、JR大阪環状線・阪和線エリア内の駅周辺地域の活性化に関するアイデアコンテストを実施しました。JR西日本では、大学と連携した地域活性化の取り組みを進めており、大阪の公立大学である本学との連携に関して地域連携センターに相談いただいたことがきっかけで実現に至りました。



● 2019年度実績

本学の通学インフラでもあるJR大阪環状線・阪和線沿線において、地域課題を解決し、または地域を活性化させ、まちのにぎわいを創出することに関する、既存概念にとらわれない学生ならではの新しいアイデアを募集しました。文系・理系、学部生から社会人大学院生まで幅広い学部・研究科からエントリーがあり、中間報告会・最終報告会を経て、JR西日本社員による審査で最優秀賞とベストユニーク賞が決定されました。



質疑応答の様子

■対象区間：JR大阪環状線、阪和線(天王寺～日根野～関西空港)

■参加者数：8組(11名)

■表彰：最優秀賞(1組)、ベストユニーク賞(1組)

■副賞：往復のJRとカニ・フグ・クエなどの冬の味覚がセットになった駅プラン、京都鉄道博物館入館券

■JR西日本による説明会 開催日：2019年7月3日(水)

■中間報告会 開催日：2019年9月11日(水)

■最終報告会 開催日：2019年11月29日(金)



参加者全員で記念撮影

タイトル	発表者
【最優秀賞】 食のまち 大阪の駅から健康発信！！～食を通じて健康と笑顔をお届け～	岡林 恵(生活科学研究科修士2年)
【ベストユニーク賞】 待ち時間を街時間に	木村 優輝、武島 侑里 (工学研究科修士1年・2年)
JRの駅がより地域の玄関口となるために	犬田 美穂(文学部3年)
海外の観光客が定住し にぎわいませ 大阪のまち～阪和線編～	大賀 清雄(都市経営研究科修士1年)
音声合成ソフト「VOCALOID」や「VOICEROID」等を利用したJR利用客の増加案	新 雄一郎(ボカロ部/文学部4年)
アプリを通じて外国観光客に大阪の魅力を紹介する	朱 瑩(生活科学研究科修士2年)
大阪ベイエリア大改造プロジェクト～大阪ええもん展ウィーク～	安居 航太、福本 勝、濱西 将宜 (経済学部3年)
バリアフリーOSAKA ワイワイガヤガヤ車両！	中永 浩伸(都市経営研究科修士1年)

すみ博協賛 市大キャンパスツアー 「近代建築・豊かな植栽と歴史をひもとく」

地域
貢献

● 事業概要

毎年秋に大阪市住吉区で開催されている「すみよし博覧会(すみ博)」への協賛企画として、キャンパスツアーを開催しています。

● 2019年度実績

メタセコイアをはじめとした杉本キャンパス内のさまざまな植栽について、実際に見たり触ったりしつつ、歴史的建築物としての本学の建物の魅力についても解説し、地域の方に親しんでいただきました。

開催日: 2019年10月20日(日) **参加者:** 20名

案内人: 水内 俊雄 教授(都市研究プラザ)、北村 昌史 教授(文学研究科)

コース: 杉本キャンパス内の植栽(メタセコイア、オリーブ、ユーカリ、ケヤキ、月桂樹など)、建築物(1号館、学生サポートセンター、旧書庫、学術情報センター屋上庭園など)



三木茂教授が発見した
メタセコイアについて

住吉区老人福祉センター 市大キャンパスツアー

地域
貢献

● 事業概要

住吉区老人福祉センター利用者からの「大学の近くに住んでいるのになかなか行く機会やきっかけがない」という声に応え、本学の大学祭である银杏祭の開催期間中に、キャンパス内を案内する解説ツアーを実施しています。

● 2019年度実績

2019年度は3回目の開催となり、例年のコースに加え、馬術部が世話する厩舎などを見学しました。

開催日: 2019年11月1日(金) **参加者:** 20名

案内人: 社会連携課職員

コース: 学術情報総合センター屋上庭園、1号館、五代友厚像、馬術部厩舎、高原記念館等



厩舎にて、馬術部学生と馬との
ふれあい

子育てママの社会科見学@ぐるぐる

地域
貢献

● 事業概要

子育て中で離職している女性向けに、家庭のみの閉塞感から解放されリラックスできたり、自己肯定感を高めたりできるような居場所を体験し、「当事者コミュニティへの参画」を促すための実証事業として、大阪市男女いきいき財団との共催で実施しました。

● 2019年度実績

現役の子育てママたちが中心になって組織された「あおぞら湯」が運営する「中津つどいの広場“ぐるぐる”」に訪問し、施設の見学や参加者間での交流会を実施しました。参加者からは、「同じような気持ちを共感できてよかった」、「自分の今を見つめなおすきっかけや答えをいただきました」などの感想をいただき、初対面で出会った人同士にも関わらず交流を深め、当事者コミュニティへの参画の機会提供となりました。

開催日: 2020年2月19日(水) **場所:** 中津つどいの広場「ぐるぐる」

参加者: 24名(女性14名、子ども10名)

※本事業は、令和元年度「男女共同参画推進のための学び・キャリア形成支援事業」(文部科学省)として実施しました。



代表理事の笠井さんから話題提供

文化交流センター講座

● 事業概要

文化交流センターは1982年に大阪駅前ビルに設立されました。大学の持つ知的情報を提供し、学術研究成果を社会へ還元することで、学術文化の振興への寄与を目的としています。年間を通じて多くの公開講座やセミナーを開催しています。また、センター内に談話室を設置し、本学教職員や卒業生等の情報交換・交流を推進しています。



● 2019年度実績

講座数：計62講座（※新型コロナウイルス感染症の影響によりうち7講座は開催中止）

参加者：3,042名（のべ）

文化交流センター5・6月講座（2019年5・6月） 全13講座	
本学の教員が、さまざまな分野における研究を通して得た知識や見解についてお話ししました。	
こころとの対話Ⅱーカウンセリングで出会うこころのいにしえ・いま・みらいー	三船 直子 教授(生活科学研究科) 他
7・8月夏期講座「学問の先達は語る」(2019年7・8月) 全7講座	
本学にて長年研究と指導にあたってきた名誉教授等が、その研究内容についてお話ししました。	
「読み書き」から見るイタリア・ルネサンス	大黒 俊二 名誉教授(文学研究科) 他
防災講座「災害時の弱者・福祉・健康を考える」(2019年9月) 全4講座	
災害時の環境変化に伴った、災害弱者・健康面の問題に視点をあてるとともに、日頃からのつながりについて考えました。	
もしも災害が起こったら一子ども(病児・障がい児を含む)を守るために大人ができること、子ども自身が できることー	平谷 優子 教授・横山 美江 教授(看護学研究科/都市防災教育研究センター) 他
野村証券株式会社共催講座「私たちの暮らしとお金を考える」(2019年10月) 全4講座	
金融の専門家をお招きし、私たちを取り巻く経済情勢と投資環境を軸に、単独セミナーを実施しました。	
人生100年時代を見据えた資産管理	田中 政広氏(野村証券株式会社投資情報部ファイナンシャルプランナー) 他
博学連携講座「中世の渡辺と渡辺党ー淀川をめぐる武士団と信仰ー」(2019年11月) 全4講座	
平安時代から鎌倉時代を中心に「渡辺」と呼ばれる地を本拠地として活躍した武士団＝渡辺党に関して、地形や実態など、多彩な角度からお話ししました。	
中世の天満と天神社	大澤 研一氏(大阪歴史博物館学芸員) 他
文化交流センター公開講座(2019年11・12月) 全7講座	
本学の教員が、さまざまな分野における研究を通して得た知識や見解についてお話ししました。	
加齢黄斑変性診療のすべて	本田 茂 教授(医学研究科) 他
専門家講座(2020年1～3月) 全23講座 ※2月中旬以降の7講座は中止	
各分野で活躍する本学卒業生等が講師となり、＜会計・税金、法律、証券、スポーツ、技術、人間・社会、理学、文化・歴史、メディア、生活科学＞の10コースについてお話ししました。	
＜会計・税金コース＞私たちの税金ー所得税ー	吉松 宏晃氏(吉松会計事務所所長/公認会計士/税理士) 他

第16回三大学連携事業 「SDGs—私たちが生き続けられる世界に！」

公開講座

● 事業概要

本学、大阪府立大学、関西大学の三大学は、同じ大阪都市圏に立地する大学として、2008年に包括連携協定を締結しました。この協定に基づいて、毎年公開講座を共同開催しています。

● 2019年度実績

2019年度より3年間にわたり、「SDGs」をテーマとした講座を連続開催することとなりました。今回は基調講演に国連の根本かおる氏を迎え、SDGsをいかに「自分事化」し、未来のために社会とどのように関わっていくべきかお話しいただきました。パネルディスカッションでは、三大学から教員が自身の研究とSDGsの繋がりについて語り、大学の研究および教育が社会にどう貢献できるのか、またどのような展望を持つべきか議論され、SDGsについて多くのメッセージを発信する場となりました。

開催日：2019年11月9日(土)

開催場所：関西大学梅田キャンパス 8階ホール

参加者：189名



根本かおる氏による基調講演



パネルディスカッション

第1部	基調講演「SDGsを自分事化して世界を変革する担い手に！～世界規模の思考力と足元の行動力を育むために～」
	講師：根本 かおる氏 (国連広報センター所長)
第2部	パネルディスカッション「格差・環境・科学技術—SDGsと大学の役割」
	パネリスト：遠藤 徹 准教授 (本学工学研究科) 嵯峨 嘉子 准教授 (大阪府立大学人間社会システム科学研究科) 谷 弘詞 教授 (関西大学システム理工学部)
	ファシリテーター：品川 哲彦 教授 (関西大学文学部/地域連携センター長)

公開講座

大阪落語への招待

公開講座

● 事業概要

大阪落語の第一線で活躍する落語家を講師に迎え、学生と一般受講者がともに学ぶ公開授業です。全14回にわたる講義を通じて、大阪落語の面白さや奥深さだけでなく、大阪の文化や芸能、市民生活についても解説しています。

● 2019年度実績

授業では大阪落語と江戸落語の違い、歌舞伎や音曲との関係など、落語の歴史や表現の特色を明らかにしました。12回目の講義では、「寄席への招待」と題して桂春團治客員教授をはじめとする一門の方々による落語の実演が行われました。最終回の講義終了後には、一般受講生を対象とした修了式を行い、全14回のうち10回以上出席した受講者68名に対して修了証を授与しました。

開催日：2019年4月10日(水)～7月24日(水) (全14回)

開催場所：大阪市立大学杉本キャンパス 基礎教育実験棟1階 階段教室

受講者：一般101名、学生200名

講師：久堀 裕朗 教授(文学研究科)、桂 春團治 客員教授、桂 春雨 客員教授 他



近鉄文化サロン共催講座

公開講座

● 事業概要

株式会社近鉄百貨店との文化事業実施に関わる協定に基づき、2007年度から近鉄文化サロンの共催講座を実施しています。歴史や文学など文系の講座を中心に開催しました。

● 2019年度実績

講座数：年間26講座

開催場所：近鉄文化サロン阿倍野(あべのand内)

参加者：858名(のべ)



	開催日および時期	講座名	講師
定期講座	2019年前期(6回)後期(5回)	じっくりと味わう源氏物語	水谷 隆 准教授(華頂短期大学)
	2019年前期(全6回)	<もの>から語る大阪の歴史Ⅳ	仁木 宏 教授・岸本 直文 教授・ 磐下 徹 准教授(文学研究科)
	2019年後期(全6回) 6回目は延期	中世都市を歩こうⅢ ～歴史と地形から「町」を復元する	仁木 宏 教授(文学研究科)
一日・短期講習会	2019年7月20日(土)	はじめまして句会	杉田 菜穂 准教授(経済学研究科)
	2019年9月5日(木)	平安貴族の恋愛作法 —古典文学を楽しむための基礎知識—	水谷 隆 准教授(華頂短期大学)
	2019年10月26日(土)	なぜ「喫茶店」は「きっさてん」なのか —漢字の発音のふしぎ—	大岩本 幸次 准教授(文学研究科)
	2020年2月1日(土)	江戸ガールのライフスタイル ～浮世絵に見る江戸の暮らし、趣味、そして恋～	菅原 真弓 教授(文学研究科)

朝日カルチャーセンター連携講座

公開講座

● 事業概要

株式会社朝日カルチャーセンターとの文化事業実施に関わる協定に基づき、2014年度から実施しています。

● 2019年度実績

2019年度は「市大・朝日 連携講座」として、文化・生活・健康をテーマに、大学の専門分野における研究者の視点で学ぶ講座を開催しました。

講座数：年間10講座

開催場所：朝日カルチャーセンター中之島教室

参加者：166名(のべ)



開催日	講座名	講師
2019年4月14日(日)	まち歩きを「おもしろがる」ために	天野 景太 准教授(文学研究科)
2019年5月26日(日)	アトピー性皮膚炎やアレルギーとの上手な付き合い方	大村 玲奈 助教(医学研究科)
2019年6月9日(日)	そのお薬、正しく飲んでいますか？ ～ジェネリックの話題と併せて～	永山 勝也 薬剤部長(医学部附属病院) 中村 安孝 薬剤部副部長(医学部附属病院)
2019年7月28日(日)	生きものって何？—議論していいんです！	宮田 真人 教授(理学研究科)
2019年8月25日(日)	少子高齢化と今後の日本経済	滋野 由紀子 教授(経済学研究科)
2019年9月8日(日)	健康診断結果から生活習慣をふりかえろう	山口 曜子 教授(看護学研究科)
2019年10月27日(日)	わかりやすい遺伝・ゲノムのお話	瀬戸 俊之 准教授(医学研究科)
2019年12月8日(日)	コンビニを「科学」する	田村 晃二 准教授(経営学研究科)
2020年1月26日(日)	こころとからだの健康～生体リズム	森口 由佳子 講師(看護学研究科)
2020年2月9日(日)	海を越えた古代の石碑～多胡碑と東アジア	磐下 徹 准教授(文学研究科)

第16回高校化学グランドコンテスト



● 事業概要

高校生および工業高等専門学校生(3年生以下)が行っている学習研究活動を支援し、高校生等自らが自主的な研究活動を楽しみながら、科学的な創造力を培うことで、将来科学分野で活躍できる人材へと育成することを目的に行っている教育支援プログラムです。

● 2019年度実績

3年ぶりに本学での開催となった今年度は、全国から過去最多のエントリーがあったほか、昨年に引き続き、台湾とシンガポールからも高校生が招へいされました。6月中旬から始まった本プログラムは、大学教員による研究サポートやエントリー、一次審査を経た後、10月に最終選考会が開催されました。最終選考会では、口頭・ポスターによる研究発表やレセプションパーティーを通し、参加高校生同士が意見交換を行うことで、お互いの発表や英語のスキルを高め合い、審査委員との対話でも、今後の研究意欲向上につながる交流が生まれました。

*海外招へいの受入れは、国立研究開発法人科学技術振興機構「さくらサイエンスプラン」のサポートを受けました。

主催: 大阪市立大学、名古屋市立大学、横浜市立大学、読売新聞社

■ 最終選考会

開催日: 2019年10月26日(土)・27日(日)

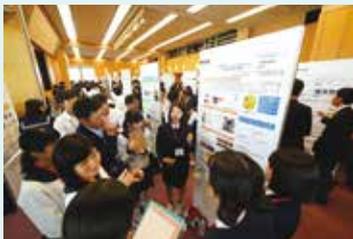
開催場所: 大阪市立大学 杉本キャンパス 学術情報総合センター、田中記念館

参加者: 879名(のべ)

エントリー数: 130チーム

プログラム: 1日目 ポスター発表(120チーム)、レセプションパーティー

2日目 口頭発表(10チーム)、海外招へい校発表(3チーム)、特別講演、表彰式



ポスター発表の様子



レセプションパーティーで国際交流!



福島成蹊高等学校による口頭発表

最終選考会結果一覧:

文部科学大臣賞	福島成蹊高等学校	パナソニック賞	仁川学院高等学校
大阪市長賞	東京都立多摩科学技術高等学校	第一三共賞	聖霊女子短期大学附属高等学校
三大学学長賞	富山県立富山中部高等学校	シュプリングァー賞 (3件)	(口頭発表) 大阪桐蔭高等学校 (ポスター発表) 千葉県立大原高等学校 大阪桐蔭高等学校
読売新聞社賞	岐阜県立岐阜高等学校		
審査委員長賞 (2件)	島根県立浜田高等学校 大阪府立大手前高等学校*/大阪府立春日丘高等学校*/大阪府立今宮工科高等学校* (合同チーム) (*定時制の課程)		

府大★市大★高専 小中学生サマーラボ ～やってみよう！見てみよう！～



● 事業概要

2018年度から実施している小中学生向けの体験学習プログラムです。夏休み期間を活用し、医学、工学、理学、人文科学、データサイエンスなど幅広い分野のプログラムを提供することで、児童生徒の知的好奇心を育み将来の進路選択に資することを目的としています。

● 2019年度実績

2018年度は大阪府立大学との共催企画でしたが、2019年度からは大阪府立大学工業高等専門学校も参画し、3校での実施となりました。全体で15のプログラムが企画され、本学からは7プログラムを提供しました。今年度も多くの小中学生からの申し込みがあり、参加者アンケートからは「普段では体験できないことができ良い経験となった」など満足度も高く、子どもたちの興味関心を刺激する機会となりました。

開催日：2019年7月31日(水)～8月21日(水)

開催場所：大阪市立大学 杉本キャンパス・阿倍野キャンパス
大阪府立大学 なかもずキャンパス・I-siteなんば
大阪府立大学工業高等専門学校

参加者：301名(のべ) (内訳：本学124名、府大117名、府大高専60名)

講師・プログラム：



開催日	プログラム名	講師	参加人数
7月31日(水)・ 8月21日(水)	サイエンスサマープログラム 「データで遊ぼう！」	新谷 歩 教授 (医学研究科医療統計学)	16名 (のべ)
8月1日(木)	バイキンズワールド	金子 幸弘 教授 (医学研究科細菌学)	19名
8月1日(木)	白血病について知ろう	日野 雅之 教授 (医学研究科血液腫瘍制御学)	18名
8月2日(金)	あつまれ！メディカルキッズ ～病院のお仕事を体験してみよう～	栩野 吉弘 講師 (医学部スキルスシミュレーション センター)	24名
8月2日(金)	<small>ひえまさ</small> 穉時づくりワークショップ ～江戸時代の青田を再現しよう～	菅原 真弓 教授 (文学研究科文化資源学)	21名
8月6日(火)	電子顕微鏡を用いた細胞構造の観察	広常 真治 教授 (医学研究科細胞機能制御学)	8名
8月20日(火)	ポテチの容器で宇宙線を見よう	荻尾 彰一 教授 (理学研究科数物系専攻)	18名
大阪府立大学(4プログラム) 小学生もの作りサマーセミナー 3Dプリンター工作教室／親と子供の楽しい化学実験～炭酸ガスは水に溶ける？～／小学校高学年のためのロボット教室／やってみよう！化学の不思議おもしろ化学実験 大阪府立大学工業高等専門学校(4プログラム) 橋をつくって、こわそう／電源につながなくても動かせるワイヤレス給電の秘密！／暗号を作ってみよう／エンジンの組立て			

プログラム詳細:

●サイエンスサマープログラム「データで遊ぼう！」

データ集積管理システム“REDCap”を使い、日々の疑問などについて、2日間にわたりデータ収集・分析を体験しました。1日目は統計学のレクチャーを受けオリジナルのアンケートを構築し、2日目はそれまでに収集した回答を分析しPowerPointで結果をまとめました。大学生が行う、一連の調査・研究方法を用いて作り上げたポスターは、夏休みの研究成果の1つとなりました。



●バイキンズワールド

バイキン(細菌)について、様々な性格や特技をもった「バイキンズ」というオリジナルキャラクターを通して勉強した後、講師自作のゲームを体験しました。クイズ大会では白熱したバトルが繰り広げられました。様々なバイキン達を身近に感じることができました。



●白血病について知ろう

本学医学部附属病院の普段立ち入ることのできない場所で、白血病の講義を聞いた後、血液型を調べる検査やエコー体験、輸血部や無菌室などの設備を見学しました。白衣を着た参加者は真剣な表情で話を聞き、医学への関心が高まったことでしょう。



●稗時(ひえまき)づくりワークショップ
～江戸時代の青田を再現しよう～

初めて耳にする稗時のことを、講師のレクチャーで勉強した後、稗時づくりに挑戦しました。鶴の粘土細工やかかし作りなど、細かい作業に苦戦しながらも、夢中で取り組みました。持ち帰った稗の成長は、夏休みの楽しみとなったのではないのでしょうか。



●あつまれ！メディカルキッズ
～病院のお仕事を体験してみよう～

医師や看護師の仕事についての講義を聞いた後、3種類のシミュレーターを使って医療の仕事を体験しました。ビーズを用いた「腹腔鏡手術シミュレーター」では、誰が一番多くビーズを移動できるか競争しました。少し大きな白衣姿がとても頼もしく見えました。



●電子顕微鏡を用いた細胞構造の観察

電子顕微鏡の基本原理や、観察する神経細胞についてレクチャーを受け、最新鋭の電子顕微鏡を使いネズミの脳の神経細胞を観察しました。研究者さんならに、見つけたシナプス構造やミトコンドリアをマイピクチャーに収め、貴重な体験となりました。



●ポテチの容器で宇宙線を見よう

宇宙線という肉眼では見えない放射線の存在に驚きつつ、その宇宙線を見るための霧箱と呼ばれる装置を、ポテチチップスの容器などの身近な材料を使い製作しました。自作の霧箱で見る宇宙線に感動もひとしおで、見えた時には大きな歓声があがっていました。





市大授業

● 事業概要

主に高校生を対象とし、文学部と理学部の現役大学教員が行う授業を実際に体験したり、キャンパスや施設見学をすることで、新たな発見や興味を見つけ、学習意欲の向上と、進路選択への寄与を目指した毎年恒例のイベントです。

● 2019年度実績

開催日：2019年4月29日(月・祝)

開催場所：大阪市立大学杉本キャンパス
1号館、全学共通教育棟、学術情報総合センター

参加者：1,071名(内訳：文学部450名、理学部621名)
※学術情報総合センター施設見学会 217名



「生きものって何？
-議論していいんです！」



文学部を知りたい人のための「市大授業」～ひらけゆく世界 みえてくる人間～	
「映画的身体」とは何か？-映画表現における身体の諸相	海老根 剛 准教授(文学部文化構想学科)
大学で学ぶ日本史とは？-合同調査の20年	塚田 孝 教授(文学部哲学歴史学科)
学びを促す学習環境のデザイン-教育方法学への誘い	島田 希 准教授(文学部人間行動学科)
英国ユートピア文学入門	杉井 正史 教授(文学部言語文化学科)
文学部学生とのフリートーク！	協力：大阪市立大学文学部・文学研究科教育促進支援機構
数学や理科の好きな高校生のための「市大授業」	
不等式の世界	高橋 太 教授(理学部数学科)
科学の宝石:ダイヤモンド	藤原 正澄 講師(理学部化学科)
なぜ日本の火山は爆発的に噴火するのか	柵山 徹也 准教授(理学部地球学科)
絶対零度への挑戦	井上 慎 教授(理学部物理学科)
生きものって何？-議論していいんです！	宮田 真人 教授(理学部生物学科)



中学生による大学見学

● 事業概要

府内の中学校等からの申し入れにより、中学生を対象とした大学見学を実施しています。この事業を通して、大学進学が将来の進路選択の一つとなり、中学生自らの学習意欲を促進することを目指しています。

● 2019年度実績

実施件数：2件 参加者：のべ66名(中学生、教員等)



大学教員による模擬授業の様子



[TOPICS]

八尾市在住の異文化にルーツを持つ中学生による大学訪問

8月7日(水)に八尾市教育委員会・八尾市在日外国人教育研究会との地域連携事業として、中学生大学見学を実施しました。参加した36名の中学生たちは、大学生活などの説明を受けた後、模擬授業、昼食、図書館や実験棟施設の見学や本学学生との交流を体験し、これからの進路を考える貴重な機会となりました。

※八尾市内の異文化にルーツを持つ子どもを対象とした「第39回多文化キッズサマースクール・オリニマダン」として開催されました。

高校生のための先端科学研修(大阪市立大学化学セミナー)



● 事業概要

本学の最先端研究に携わる教員が高校生に直接講義を実施することで、各分野の興味関心を深め学習意欲を高めることを目的とし、2003年度より大阪市教育委員会との共催で実施しています。主に高校生を対象として、高校で習う「化学」とは少し違った視点から見る講義内容を通じて、さらなる化学の面白さを感じていただくセミナーです。



実際に分子模型を組み立てて理解を深めました



● 2019年度実績

開催日: 2019年8月3日(土)

開催場所: 大阪市立大学杉本キャンパス
学術情報総合センター10階大会議室

参加者: 262名(のべ)

コースタイトル	講師
Aコース 生命機能を支える金属イオンの役割	中島 洋 教授(理学研究科)
Bコース 立体的な分子のかたち	保野 陽子 助教(理学研究科)
Cコース 分子の構造を見る	宮原 郁子 准教授(理学研究科)

リビング子ども大学2019 「実験しようよ! “百聞は一見にしかず”」



● 事業概要

サンケイリビング新聞社が夏休みに関西圏の大学で行う、小学生とその保護者を対象とした体験企画です。本学では、2017年度より企画を提供しています。

● 2019年度実績

本学を含めて5つの大学が企画を提供し、全体で150組の親子が参加しました。本学では、技術職員チームの全面協力のもと、参加者全員で「ふりこウェーブ」の実験工作を行い、その後スタンプラリー形式で実験室を巡り、6つの体験企画を実施しました。

開催日: 2019年8月6日(火)

開催場所: 大阪市立大学杉本キャンパス 基礎教育実験棟

参加者: 29組58名(小学1~6年生とその保護者)

プログラム: ・不思議な動きをする「ふりこウェーブ」

・実験室でスタンプラリー

- ①海水の秘密
- ②液体窒素実験
- ③ガラス細工
- ④ダンゴムシの観察
- ⑤音を見てみよう
- ⑥シャボン玉実験



親子でふりこ装置を作製



シャボン玉実験の様子

博学連携事業

● 事業概要

地方独立行政法人大阪市博物館機構および一般財団法人大阪市文化財協会と本学は、2019年4月1日(月)にそれぞれ包括連携協定を締結しました。前身の大阪市博物館協会とは2011年から、歴史・文化・美術などの分野で、それぞれの専門性を活かしつつ共同して事業を実施してきましたが、より一層大きな枠組みに発展・強化し、学生や博物館利用者、市民や地域社会への貢献をさらに高めることを目的の一つとしています。各事業の企画・運営は、博物館および文化財の学芸員と大学教員で構成される博学連携ワーキンググループを組織して行っています。

● 2019年度実績

■ 全国同時七夕講演会「ブラックホール…見えた?!」

七夕の日を中心とした前後の期間に、全国各地で同時に天文や宇宙の講演会を実施するイベントです。今回は包括連携協定締結を記念し、2019年春にリニューアルオープンした大阪市立科学館で、博学連携ならではの新しい発見、体験や学びの場となることを目的として実施しました。「ブラックホール」をテーマとしたプラネタリウム投影と、本学教員による講演を行いました。



講演会の様子

開催日: 2019年7月27日(土)
開催場所: 大阪市立科学館 プラネタリウムホール
参加者: 286名

	テーマ	講師
プラネタリウム投影	ブラックホール	石坂 千春 学芸員(大阪市立科学館)
記念講演	ブラックホール…見えた?!	石原 秀樹 教授(本学理学研究科)

■ 博学連携講座「中世の渡辺と渡辺党－淀川をめぐる武士団と信仰－」

渡辺党の組織や行動、当時の大阪平野の地形や渡辺津の実態、天満天神社とその周辺など、多様な角度から中世の渡辺について解明する連続講座を開催しました。

開催日: 2019年11月5日(火)、12日(火)、19日(火)、26日(火) (全4回)
開催場所: 大阪市立大学文化交流センター ホール
参加者: 440名(のべ)

	テーマ	講師
第1回	水の中世武士団渡辺党	生駒 孝臣 専任講師(花園大学文学部)
第2回	大川の変遷の中から中世の地形を読む	趙 哲済 学芸員(大阪市文化財協会)
第3回	中世の天満と天神社	大澤 研一 学芸員(大阪歴史博物館)
第4回	中世「なにわ」はどんな場所だったか －難波宮廃絶から蓮如・大坂御坊建立のあいだ－	仁木 宏 教授(本学文学研究科)

■シンポジウム「河内鑄物師の実像に迫る」

中世に、河内国丹南(たんなん)郡(現在の堺市美原区や東区日置荘)を拠点として活躍した鉄・銅の鑄造工人集団「河内鑄物師(かわちいもじ)」に焦点をあてて、専門分野の異なる各講師が最新の発掘調査や研究成果を報告し合い、ディスカッションを行いました。

開催日: 2019年11月30日(土)
開催場所: 大阪歴史博物館 4階講堂
参加者: 137名



岸本直文教授



	テーマ	講師
講演会	河内鑄物師を考える	岸本 直文 教授(本学文学研究科)
	河内鑄物師全国展開の虚実	市村 高男 名誉教授(高知大学)
	丹南鑄物師遺跡の調査－大阪府の調査を中心に－	小浜 成氏(大阪府教育庁文化財保護課)
	大阪市内の遺構・遺物からみた河内鑄物師とその系譜	小田木 富慈美 学芸員(大阪市文化財協会)
	中近世都市・堺の鑄物生産と金属精錬	嶋谷 和彦 学芸員(堺市文化観光局文化財課)
	河内の鑄鉄製銅釜と青銅製梵鐘	五十川 伸矢氏(鑄造遺跡研究会)
＜ディスカッション＞		

■ミュージアム連続講座「世界遺産と文化財」

2019年7月、百舌鳥・古市古墳群が大阪府内では初めて世界文化遺産に登録されました。この講座では、同古墳群やそれに関連する平野区長原遺跡について紹介しました。さらにヨーロッパなどの世界遺産や大阪府内の来訪神について取りあげ、国宝に指定されている貴重な文化財について講義を行いました。

開催日: 2019年12月5日(木)、12日(木)、19日(木) (全3回)
開催場所: 難波市民学習センター
参加者: 142名(のべ)



	テーマ	講師
第1回	国宝の陶磁器－油滴天目と飛青磁花生を中心に訪れる神と人びと	小林 仁 学芸員(大阪市立東洋陶磁美術館) 澤井 浩一 学芸員(大阪歴史博物館)
	古市・百舌鳥古墳群の歴史的意義	岸本 直文 教授(本学文学研究科)
第2回	倭五王を支えた人びと－平野区長原遺跡から－	清水 和明 学芸員(大阪市文化財協会)
	世界遺産にみる英国の先史時代	岡村 勝行 学芸員(大阪市博物館機構)
第3回	旅する芸術家と世界遺産	清原 佐知子 学芸員
	－大阪中之島美術館コレクションより－	(大阪中之島美術館準備室)

■共同研究

- ・戦略的研究(基盤研究/2019年度)
「豊臣期大坂城本丸の復元－文理融合・博学連携プロジェクト－」
代表研究者: 仁木 宏教授(文学研究科)

地域志向教育の取り組み

● 事業概要

本学では全学共通科目の履修において「地域志向系科目」2単位以上の修得が必須となっているほか、都市や地域社会が抱える課題とその解決の方策を現場で学修するプログラム「CR（コミュニティ再生）副専攻」を設置し、主体的に地域社会をデザイン・コーディネートする人材の育成を目指しています。また、地域と連携してCR副専攻の実習等に貢献しうる取り組みを行っている教員に対して、「地域志向教育研究補助事業」を通じて、助成を行っています。

● 2019年度実績

■全学共通地域志向系科目 開講：32科目

■CR認定専門科目 開講：31科目

■CR副専攻科目

科目名	履修学生数
地域実践演習Ⅰ～Ⅴ	34名
アゴラセミナーⅠa/Ⅰb	5名
アゴラセミナーⅡ	7名



フィールドワークの様子(アゴラセミナーⅠa)

■オープンキャンパスでのCR副専攻の紹介

高校生をはじめとするオープンキャンパス参加者に対し、CR副専攻の授業科目や取り組みについて、これまで実施してきた取り組みを交えたパネル展示や、学生が授業の中で取材・撮影した映像などの上映により紹介しました。

開催日：2019年8月10日(土)、11日(日)

開催場所：大阪市立大学杉本キャンパス 高原記念館1階 研究・交流スペース

参加者：700名以上(のべ)



オープンキャンパスでの様子

■アゴラセミナーⅡ 報告会

CR副専攻の集大成である「アゴラセミナーⅡ」を履修した学生が、学修した知識や実践力をもとに、自ら問題提起し、設定したテーマとそのテーマに対する解決方法について発表を行いました。当日は、一般参加者をはじめ、他大学の教職員や自治体関係者など、多くの参加者が聴講しました。

開催日：2019年8月11日(日)

開催場所：大阪市立大学杉本キャンパス 高原記念館1階 研究・交流スペース

発表テーマ	発表者(学部・学年)
八尾市における河内音頭の営み	文学部4年
中山間地域の空き家の活用方法	経済学部3年
コミュニティ主体の避難所運営 ～震災関連死を減少させるためには～	生活科学部3年
単身高齢者に対する地域の在り方	生活科学部3年
地域における移住と子育て政策上の課題	法学部3年
昭和町周辺の魅力について	文学部3年
大阪市沿岸地域の津波リスクと海との付き合い方	経済学部3年



アゴラセミナーⅡ報告会での発表の様子

■地域志向教育研究補助事業

地域と連携してCR副専攻の実習等に貢献しうる取り組みを行っている教員に対して、「地域志向教育研究補助事業」を通じて助成を行っています。2019年度は選考のうえ、この趣旨に沿った事業10件が採択されました。

COC+事業「わかやまの未来を切り拓く若者を育む “紀の国大学” の構築」

その他
事業

● 事業概要

2015年度の文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」に、和歌山大学を事業主体として採択され、本学は参加校として参画しています。和歌山県および大阪府内の参加校と協力校、自治体や地元企業、団体等で“紀の国大学”を構築し、地域と協働して交流を図り、地域を活性化する人材、地元で活躍できる人材の育成を目指しています。

● 2019年度実績

■ 教育の地域志向化への展開

- ・全学共通科目「地域志向系科目」(32科目)を紀の国大学へ単位互換提供
- ・CR副専攻関係の一部科目を紀の国大学参加校へ開放
- ・本学・和歌山大学・和歌山工業高等専門学校での化学の専門教員が参画して2018年度に和歌山大学で立ち上げた地域専門科目を2019年度も引き続き開講し、共同で実習を実施

授業名	分野	テーマ	フィールド	協働先
地域実践演習Ⅲ	地域福利	紀伊半島の地域再興の学修	日高郡 日高川町 寒川	寒川地区寄合会、寒川区委員会、紀中森林組合、日高川町生活研究グループ、寒川ホテル保存会ほか
アゴラセミナー I a	地域福利	紀伊半島の地域再興の学修	新宮市	新宮市、熊野川行政局、みつの地域活性化協議会、小口自然の家、一般財団法人熊野川町ふれあい公社、NPO高田、新宮市観光ガイドの会、曹洞宗永福寺、三輪崎青年会、新宮市児童館など
プラスチック成形技術	わかやま未来学副専攻「地域専門科目」	和歌山県海南市の地場産業であるプラスチック製品の成形技術を学ぶ	和歌山市、和泉市	和歌山大学、和歌山工業高等専門学校、大阪産業技術研究所など



地域実践演習Ⅲ
(寒川神社の前で)

■ 連携事業

企画名	内容	実施場所	協働連携先
命と生活のインフラ“まちづくり”：「御坊まち活性化ゼミナール」	紀の国大学3校と御坊市の職員が、商業施設オークワロマンシティ御坊店にて「楽しく遊びながら防災を学ぶ」をテーマに、住民向けのインターンシップワークショップを実施	御坊市	和歌山大学、和歌山工業高等専門学校、御坊市、オークワ
キャリアセミナー「業界・企業研究セミナー」に、わかやまブース設置	大阪市立大学で開催している「業界・企業研究セミナー」の一角に和歌山県の企業紹介ブースを設置し、学生100名近くが参加	大阪市立大学 杉本キャンパス	和歌山県庁、和歌山県企業(18社)
キャリアセミナー「特別講座&OBOG交流会」	地元で活躍している方を講師とした特別講座および和歌山に就職したOB・OGとの交流会を開催、学生約120名が参加	大阪市立大学 杉本キャンパス	和歌山県庁、和歌山県教育委員会、和歌山県企業(4社)ほか
紀の国大学認定制度	“紀の国大学”の事業理念である「わかやまの未来を切り拓く若者を育む」制度にCR副専攻受講生2名が参加	和歌山市	紀の国大学協議会



御坊まち活ゼミナール



業界・企業研究セミナー



特別講座&OBOG交流会



紀の国大学認定制度

■ その他実績

- ・「令和元年度COC+ 事業報告書」の作成(和歌山大学と連携)
- ・「令和元年度大阪市立大学地域志向教育活動事例集」の作成
- ・地域志向教育活動状況のWeb情報発信(大阪市立大学、和歌山大学、高知大学COCポータルサイトなど)

その他事業

和歌山県の過疎地域における集落の維持・活性化と再編(データ利活用事業)

● 事業背景と目的

本学の地域貢献の主眼としてのシンクタンクの機能を発揮するために、データサイエンス強化を先取りする形で、大阪市の生活保護のビッグデータ分析や、大阪市内各区役所との地理情報に基づく地域分析や地域プロモーション、和歌山県データ利活用推進センターと共同で中山間地域の現状や将来分析も行っています。EBPMの一環として、職員研修も取り込み、公立大学の真価を発揮する重要な取り組みと位置付けています。

本事業の背景としては、中央省庁の地方移転の取り組みのもと、総務省統計局の一部機能が和歌山県に移転となり、それを契機として実施する和歌山県事業に、本学の研究チームが参画しました。データサイエンス強化に基づく、地方自治体との協働プログラムとして、シンクタンクの機能の錬磨に務めています。

● 事業概要

2017年度から和歌山県が始めた「和歌山県データを活用した公募型研究事業」に応募し、採択されました。和歌山県を対象として、明治行政村という新しい地理的統計単位を提案し、小地域データに基づいてこの新しい地理的範囲によるデータベースを構築、地理情報の可視化のためGIS（地理情報システム）分析を基本に、コーホート分析をはじめとする近年の人口動態の分析、集落再編のコスト試算や将来人口推計を行いました。

事業終了後も、研究チームを中心に若手研究者も交え、継続して和歌山県の中山間地域の諸課題についての地理情報の収集、分析を行っています。同時に県下すべての自治体を対象とした職員研修という形で、和歌山県との共同事業は継続して取り組んでいます。

● 2019年度実績

2018年度に引き続き、「ふるさと生活圏の維持について理解を深めるセミナー」と題して、人口推計の解説や人口データの可視化のスキル取得と分析結果の解釈といったデータ利活用方法について、講義と演習を実施しました。

■ ふるさと生活圏の維持について理解を深める セミナー

開催日：2020年1月15日(水)、16日(木)

開催場所：和歌山県データ利活用推進センター（和歌山市）、和歌山県立情報交流センター ビッグ・ユー（田辺市）

対象者：和歌山県職員及び基礎自治体職員

講師：水内 俊雄 教授(本学都市研究プラザ)

熊谷 美香 助教(弘前大学医学研究科・本学都市研究プラザ特別研究員)



大阪市立大学 地域連携センター年報 2019
Annual Report 2019, Osaka City University

2020年（令和2年）7月発行

発行：大阪市立大学 地域連携センター
〒558-8585 大阪市住吉区杉本 3-3-138
Tel. 06-6605-2068
<https://www.connect.osaka-cu.ac.jp/4c/>

事務局：公立大学法人大阪 市立大学事務局
大学運営部 社会連携課

本年報に関するご意見・お問い合わせがございましたら、下記宛メールいただければ幸いです。なお、お問合せ内容によっては返答いたしかねる場合もあることをお含みおきください。

chiiki4c@ado.osaka-cu.ac.jp

Copyright©2020 University Public Corporation Osaka 公立大学法人大阪 All Rights Reserved

Collaboration and
Contribution Center
for Community



大阪市立大学
OSAKA CITY UNIVERSITY